

「令和3年度第2回高知県日本語教育推進会議」

日時：令和3年6月18日（金）14：00～16：00

場所：高知城ホール 2階大会議室

1 議題

- (1) 日本語教育の機会の拡充について
- (2) 県内の現状と課題、施策の方向性（案）等について
 - ・外国人等である幼児、児童、生徒等に対する日本語教育
 - ・外国人留学生等に対する日本語教育
 - ・外国人等である被用者等に対する日本語教育
 - ・地域における日本語教育

2 その他

議題（1）「日本語教育の機会の拡充について」

○事務局より、資料1を用いて説明

議題（2）「県内の現状と課題、施策の方向性（案）等について」

テーマ1【教育の場における児童生徒などに対する日本語教育について】

○事務局より、資料2について説明

【委員の発言の概要】

（折田委員）

新しく入ってくる子供が順調に学校の中に溶け込んでいくためにも、受入体制は本当に大事なこと。高知県のどの市町村、どの学校でも日本語支援の対応ができるように、教員の研修の中に組み入れていただいて、全教職員が基本的なことは知っているというようにしていただきたい。

資質向上について。高知市では3校で3人、各学校に1人の先生が日本語教室に配置され、孤軍奮闘している。また日本語指導に関する研修も年1回、2時間程度のみ。できればチーム体制が組めるような、また集まって研修できる場を作ったり、一つセンターみたいなところがあってそこから巡回指導に何人かで行くというような体制を整えればよいと思う。

キャリア教育については、親への支援も大事。外国人の子供さんだと、親が日本の教育体制を知らない。例えば高校卒業後の進路や、国立、公立、私立の違い及び経済的な負担

について。親御さんに基礎的な知識を持っていただくため、教育委員会の方々や学校から、高知県の教育について簡単にわかりやすく、教えていただきたい。

夜間中学校について。今、外国人の生徒の補習を担当しているが、その方は日本に来て30年たち、日本語は話せるが、日本での教育を受けたことがないので正しい日本語は話せない。漢字も小学校2年生までの漢字は読めるが小学校1年生までの漢字しか書けない。それで中学校の授業を受けるのは難しいので、補習で日本語の文法や漢字などを勉強している。東京の夜間中学校では、日本語ゼロの方を一年間日本語教室で日本語を教えてそれから普通の学級へ送り出す学校もある。高知もこの先外国人が増え、夜間中学への入学が増えることも予想されるので、何らかの体制が準備できればと願っている。

(寄本委員)

留学生にとっては話を聞いていただける機会というのが非常に大切だと思う。私の学校は留学生の数が多いため、生徒によってレベルが相当違う。自信が付き友達ができれば、日本語が伸びる。だから学校としては、中学校の低学年の日本語ゼロの子供たちに関しては、できるだけ日本人と関わるようにさせている。クラブの時間とか友達と過ごす時間、そんなところが低学年ではとても大切。ただやっぱり高校生以上になると日本語の授業のウエイトが随分高まってくる。

日本語の教員に関しては、先ほどお話があったとおり、それぞれが知識又は教える方法を共有しながら研究するのがとても大切なこと。またテキストが非常に少ないので、今年から特別なノートを作り、能力の高い先生たちの技術が共有され、時間の削減ができるような工夫をしている。

(池委員)

日本語ゼロの状態でも中学校に入った生徒の場合、日本語の勉強と教科を同時にこなしていく必要があり、非常に負担になる。中学校3年生だと、1年間で日本語の勉強とさらに受験対応などもしないといけない。なので、本人自体は非常に能力があっても日本語ができないために高校受験で非常にデメリットを受けた学生もいる。仮に日本語も教科の知識も少ない状態で高校に入ったとしても、なかなか授業についていくのが難しいという現状があると思う。そうするとその先のキャリア教育に影響を及ぼしていくので、高校でもある程度日本語教育の指導をする補助員のような方の配置を要望する。

テーマ2【大学や専修学校における留学生などに対する日本語教育について】

○事務局より、資料3について説明

【委員の発言の概要】

(北古味委員)

私ども専修学校の卒業生が目指すところは、大学や専門学校への進学だが、その先には就労がある。高知県で働いていただきたい、外国人の方から選ばれる高知県となるために、今外国人を高知に呼ぶための活動を積極的に行っている。

龍馬学園が留学生に日本語教育を提供することはビジネスでもあるが、学校だけの課題ではなく、高知県全体の人材確保に関わることだと思っている。

留学生の募集活動では、キャリア教育、つまり「高知県に来たら、こういう仕事ができますよ。専門学校でこの勉強をすればこんな資格が取れて、ずっと日本で働くことができます。大学に行けば、高度人材として幅が広がっていきます。あなたは将来設計としてどういった道を選びますか」といったところから、ご両親への日本のシステムの紹介も行う。今現在全くそういったことも分からずに、とにかく日本で働きたい、日本の学校に来たら働けると思っているということが大きな課題だと思っている。

私たちが学校の特色をいくらPRしたところで、留学生は学費が安いとか、コミュニティーがあるからということで、首都圏に全部流れていく。なので、学校の募集に、高知県の良さを伝えることが必要だと気づいて、そこからやっている。

就職等に関しては、留学生の思いだけではできないのが現状。まずは、県内の企業等がグローバルな意識を持ち外国人に対してフェアでウェルカムな対応をしていただけるよう、国際理解を進める活動をする必要がある。

(中川会長)

恐らく龍馬学園も県立大も高知大も留学生のレベルは高いので、日本語が少しできないということがあっても、十分仕事ができる。だから企業団体などとタイアップして、一人一人の適性に応じて就職できるようなインターンシップのプログラムとか、そういうことがあるといいのかもしれない。

テーマ3 【就労の場における労働者等に対する日本語教育について】

○事務局より、資料4について説明

【委員の発言の概要】

(古木委員)

コミュニケーション、ここが本当に大切だと思っている。事例をあげると、ある技能実習生が日本人と話すのが大好きで、地域の日本語教室にも率先して通っている。日本語が上達すると、それ以上に職場のコミュニケーションがうまくいくようになり、公私にわたり日本人との付き合いも増え、非常に日本の生活を楽しんでいる。片や、部屋に閉じ籠もっている実習生はもう国に帰りたいというような話もあったりする。この職場のコミュニ

ケーションというのが、本当にその外国人の方の高知にいる理由、モチベーションに直結しているということを感じさせてくれる。

外国人技能実習生や特定技能という方々に対しても、いずれ帰るといふ方だから放っておくのではなくて、大切な仲間として捉えて一緒に生活していく中で、定住してくれる人が増えていってくれたらいいのかなと思う。そのために今、高知が住みやすいよというように思っただけのための大きな要因は日本語の学びの支援。

本会としては、産業振興支援が本来なので、外国人社員の定着支援としての職場内でのコミュニケーションや日本語教育というのを支援したいと考えている。7月27日にキックオフセミナーを開催し、外国人材を受け入れる企業にとって課題となっている社内でのコミュニケーション、日本人も外国人も働きやすい環境を作る方法などについて、知識の共有ができていけばいいと考えている。

(吉川委員)

例えばずっとフィリピンの技能実習生ばかり受入れしていた農家さんにとっては、新しい国の人を受け入れることに不安を持つ人も多い。インドネシアの人は宗教であるイスラム教の関係で豚肉や豚エキスが入ったコラーゲン、ゼラチンは食べられない、などの説明をしたら、大変警戒された。国際理解、他国の文化にどう配慮していくべきかということについては、もう全県民、日本国民が小さい頃から教育されていくべきじゃないかなと思った。

あと宿舎は、土足で上がられたりすることも理由で、外国人に貸してくれない場合が多い。日本人に不利益な物件しか借りられない中、県外から高知で働きたいというふうに言ってくれた外国人を一度受け入れたが、宿舎が汚い、古臭いと言われた。便利な都会から田舎に来た途端、自転車で40分通勤にかかることになる。職場に近い所に宿舎を借りれないことは、私たち20年ぐらい頭を悩ましているところだが、いろんな理由を付けて断られてしまう。やっぱり来てもらいたいというからには、こっちもウェルカム体制であることが必要だと思う。

高知県はベトナム人の実習生向けに作ってくれたビデオがあるが、やっぱりああいうビデオだと見て分かりやすい。できたら他の言語でも作っていただきたい。

(市川委員)

漁業に関しては、かつて実習生だった人が、国に帰って日本語の教師になり、現在は送り出し機関から業務委託を受けて働いていたりする。彼らは本当に理想的な存在で、実習生に対しては高知の船主さんの考え方を伝えてくれるし、逆に日本側に対しては実習生の気持ちや考え方を代弁して伝える。そういう人の存在が大きくて、私はこの漁業実習のキーパーソンだと思っている。

各業界にも、理想的な教育モデルみたいな人がいたら、そういったことを共有するとい

うのは大事だと思う。

資料に受入体制の整備ということがあるが、私は社内の有志レベルでいいと思う。まず、実習生が来たら生活全般について見てあげるとか、仕事の面は僕に何でも聞いてねとか。何回でも同じこと聞いていいよとか、そういう一言を言ってあげる人がいるだけでも受入体制の整備になると思う。そういった良い事例があれば、他の企業さんに共有することにより波及していくのではないかな。

有志レベルという話でいうと、多忙を極める学校現場で全ての先生に国際教育、日本語教育の研修会をするのが難しいのであれば、有志レベルで、海外滞在の経験がある先生や、外国ルーツの生徒を支援したい志のある先生のネットワークを作るだけでも機能すると思う。つながりを作り、オンラインで小さい勉強会をするなど、まずは小さくても仕組みを作ることが大事。

(勝賀瀬委員)

当協会での日本語教室は主に初級レベルで、参加者のおよそ4割ぐらいは技能実習生の方々。一定の人数制限の上で教室を開催しているので、特定の企業からまとまった人数の参加依頼があれば、ボランティア団体さんの有料講師の派遣などをご紹介している。ただ、実際には、講師等に経費を払うのは難しい、という企業さんもいるし、県が行った調査でも、技能実習生を受け入れている事業者の45%が、日本語教育への支援を行えていないと回答している。

県においては、こうした実態も踏まえて、事業主への一層の啓発と、取り組みへの支援をお願いしたい。

(吉川委員)

働く外国人についてもう1点補足したい。外国人はやっぱり日本で働く仕組み、つまり社会保険料や税金の仕組みや支払う義務があることを理解してもらってから日本に来てもらう必要があり、理解がないままでは支払いたくない、とトラブルになってしまう。もう一点、須崎市が、ホームページでごみの捨て方の英語版を出してくれたので、大変有り難いと思っている。各市町村も同じように税金も含め多言語の説明を出していただきたい。

テーマ4【地域における日本語教育について】

○事務局より、資料5について説明

【委員の発言の概要】

(今井委員)

現在、南国市国際交流協会では、水曜日ごとの教室を対面とオンラインで行っている。実際の参加者を見てみると、南国市以外の遠隔地から来ている人も多い。勉強したいとい

う気持ちを持っている人をサポートするのは私たちの仕事と思っているが、行政のほうにもコーディネーターのような立場の行政側の担当者があるとすごく有り難い。もちろん現在も行政の方の関わりや助成金もいただいているが、常にタッグを組めるような方がいるのが望ましい。

(尾中委員)

高知日本語サロンもコロナ禍の影響で、土曜日の日本語サロンは休んでおり、木曜日のみ。私たちは国際交流協会の協力や支援もあり、ボランティア団体としては恵まれた状況ではあるが、これからの課題として、高齢化の進展もありボランティアの確保が難しくなっている。日本語教室の持続的な運営のためには、地域地域に根ざしたボランティアの人たちをどのように育成していくか、またそれぞれのボランティアの質の向上などが課題。

(勝賀瀬委員)

今回の法律のポイントの一つは、地域における日本語教育の施策の策定と実施が自治体の責務、と明記されたことにあると思う。そういったことを踏まえ、各地域、市町村における外国人への日本語教育は、地域の身近な基礎自治体である市町村が中心になって、地域の実情に応じて進めていく、そして、県や関係団体、ボランティア等がしっかり連携・サポートしていくということが重要だと思っている。そのうえで、学校や被用者への日本語教育についても取り組みをしっかりと充実させていきながら、それぞれが互いに連携、協力し、ベクトルを合わせて進めていくことが大切だと考えている。